



多面的な自己と主体性についての臨床心理学的研究

生活環境科学系・臨床心理学領域

時岡 良太

助教

TOKIOKA Ryota

博士(教育学)(京都大学)

■研究キーワード 自己,多面性,主体性,アバター,学生相談

■主な所属学会 日本臨床心理士会,日本学生相談学会,日本パーソナリティ心理学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.bcfb0d02d2d8911f520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

人間を「場によって多面的な自己を呈する存在」として捉えたうえで、私たちがいかに主体的に生きていくことができるのか、臨床心理学の視点から探究しています。「自己の多面性」と「主体性」という2つのテーマに関連する様々な研究を行ってきましたが、臨床心理士・公認心理師としてこれまで主に大学の学生相談室にて臨床実践を行ってきた経験を生かして、現代の青年たちの心理的支援に資する知見につながるような研究になるよう心がけています。

従来、一貫性のある自己や、「本当の自分」を誰しもが持っていると考えられてきましたが、社会の多様化や情報技術の革新により、場によって自己のあり方が変わる多面的なあり方を示すことも普通のことになってきています。そうした時代においては、「これが自分だ」という感覚を持って主体的に生きることが難しくなっており、そのことに苦悩する人々に対する効果的な心理的支援を見出していくために研究を行っています。

近年では特に、若い世代においてSNSなどインターネットを通じた他者との交流が当たり前のものとなっており、彼らにとってのインターネット上の自己の意義やそのあり方に着目した研究を進めています。また、学生相談のカウンセラーとしての経験を生かして、主体性に関する実践的研究も行ってきました。

研究のプロセス・研究事例

【心理臨床における「自分」に関する研究】

カウンセリングの場にも多く登場する日常語である「自分」という言葉を手がかりにして、日本人の自己のあり方について分析したり、「自分らしさ」や「自分がない」ということについて、自己の多面性との関連で分析を行いました。

【インターネット上の自己：アバターに関する研究】

アバターとはオンラインゲーム等においてユーザーが自分の分身として作成するキャラクターのことですが、一部の人びとにとっては、アバターこそがむしろ本当の自分だと感じられています。アバターという仮想空間上の自己が持つ意義やその性質について、文献資料をもとに分析を行いました。また、最近では「メタバース」に注目しており、そこで生きる人々の実体験を基に分析・考察を行う研究を進めています。

【大学生が主体性を育むプロセスに関する研究】

学生相談室のカウンセラーとしての視点から、大学生が主体性を育むプロセスについて研究してきました。具体的には、自らの臨床実践をもとに事例研究を行い、学生がカウンセラーとのやりとりを通じて主体性を育んでいくプロセスを詳細に検討したほか、不本意入学を経て主体性が乏しかった学生がその後の学生生活において主体性を育んでいくプロセスについての調査研究を行いました。